

はなわ 議会だより

2016
No.134

発行/福島県塙町議会
平成28年4月22日



3月定例会

新体制スタート…………… P 2
委員会構成決定

幼稚園入園料・保育料を無償化へ…………… P 4
福祉センター是非を問う…………… P 6
8議員が一般質問…………… P 12

新学期！笑顔で登校
(塙小学校)

委員会の構成

任期 平成28年4月5日～平成30年4月4日

経済常任委員会



委員 吉田 克則
委員 小林 達信
委員 大縄 武夫
委員 鈴木 安次
委員 青砥 與藏
副委員長 小峰 由久
委員 高縁 光
まち振興課、まち整備課、生活環境課、農業委員会に所属する事項を所管します。

総務常任委員会



委員 鈴木 孝則
委員 割貝 寿一
委員 藤田 一男
委員 長 鈴木 茂
委員 下重 義人
副委員長 七宮 広樹
委員 吉田 広明
総務課、町民課、健康福祉課、保育園、会計室、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員に所属する事項を所管します。

議会運営委員会



委員 鈴木 安次
副委員長 小林 達信
委員 鈴木 茂
委員 吉田 克則
議会の運営に関する事項を所管します。

広報常任委員会



委員 七宮 広樹
委員 鈴木 安次
委員 吉田 広明
委員 鈴木 茂
副委員長 下重 義人
議会の広報広聴に関する事項を所管します。

予算決算常任委員会

委員 長 小林 達信
副委員長 割貝 寿一
委員
議長を除く全議員



開かれた議会を目指して 新体制スタート

平成28年4月5日、議会議員改選後の初議会が開催されました。年長議員の高縁光議員が臨時議長を務め、議長選挙を行い、投票による選挙の結果、大縄武夫議員(4期)が選ばれました。議長を交代して副議長選挙を行い、副議長に鈴木孝則議員(3期)が選ばれ、各常任委員会の委員の選任、一部事務組合議員、選挙管理委員及び補充員の選挙を行い、新しい議会の構成が決定しました。



議長 大縄 武夫

このたび、議員各位のご支持により議長に就任いたしました。誠に身に余る光栄でありました。すとともに、職責の重大さを痛感しているところです。もとより微力ではございますが、町発展と町民福祉の向上に誠心誠意努力する所存でございます。本町議会は5名の新人議員が加わり、新体制がスタートしました。議会基本条例の着実な実行により、開かれた議会、円滑なる議会運営を進め、さらなる町政発展に全力を尽くして参りたいと存じます。今後とも、町民の皆様をはじめ関係各位の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。就任のあいさつといたします。



副議長 鈴木 孝則

このたびの臨時会において議員各位のご支持を賜り副議長に就任いたしました。副議長の職責を全うし議会の調和を図り円滑な議会運営を心がけてまいります。開かれた議会を目指し若い世代の方々にも関心を持っていただけるようSNSの利用など情報発信の多様化に取り組み、またICT化により経費削減や利便性追求に努めてまいります。町民の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

一部事務組合

(任期は平成32年3月30日まで)
白河地方広域市町村圏整備組合議員
大縄武夫・鈴木孝則
東白衛生組合議員
藤田一男・小峰由久
鈴木孝則・青砥與藏

監査委員

(任期は平成32年3月30日まで)
小峰 由久



選挙管理委員・補充員

(任期は平成32年4月10日まで)
委員
芳賀 正光(本町)
安津畑 輝男(堀越)
鈴木 常一(川上)
鈴木 恒之(真名畑)
補充員
戸井田 洋(台宿)
小峰 勝重(那倉)
大縄 吉夫(栄町)
荒川 正康(常世中野)

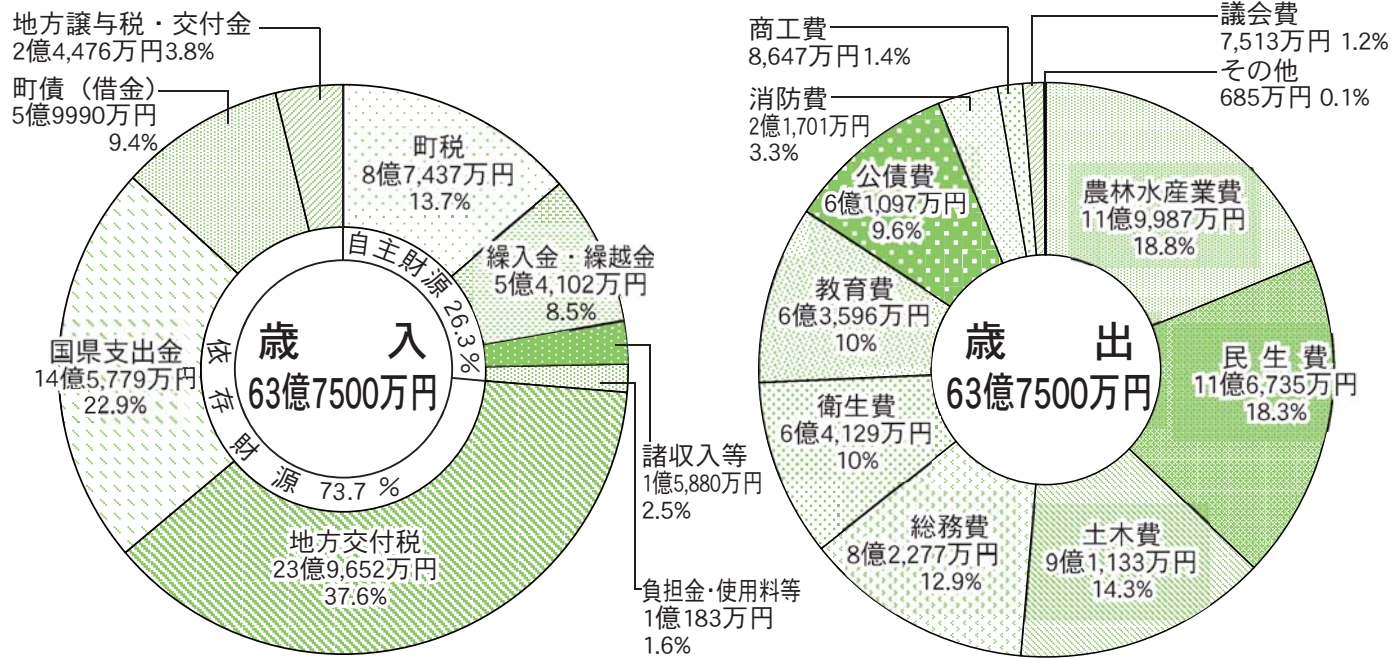
一般会計予算前年度比△3.2% 地方交付税減少の影響

総額 94億2,007万円を可決

幼稚園入園料・保育料を無償化

子育てしやすい町へ

一般会計の内訳



新年度の目玉事業

定住促進のための住環境整備 定住促進住宅建築工事などに5675万円

台宿字北原に木造2階建て、3DKの定住促進住宅1棟2戸を建設する。また、子育て若者定住促進住宅は末広町に子育て世代を対象とした町営住宅と住宅団地を計画。木造2階建て3タイプ22戸を建設するための測量設計などを行う。

子育て環境の充実 幼稚園の入園料・保育料を無料化 学童保育が全学年対象。1429万円

子育て世代の定住促進と支援のため、幼稚園が無料になる。また、共働き家庭支援のため小学生の学童保育を6年生までにする。埴小では今まで台宿分館で行っていたが、埴小校舎内で実施、環境を整え新たな学童保育がスタート。

コンビニ収納 4月1日開始 委託料、システムレンタル料 293万円

町県民税・固定資産税・軽自動車税・国保税・介護保険料・後期高齢者医療保険料がコンビニエンスストア12社5597店でいつでも納めることができる。

道路整備で暮らしやすく 道路新設、維持補修などに6億2546万円

町道板庭田野作湯舟線改良ほか町道新設改良3億566万円
町道維持補修2億1480万円
下植田橋・宮田橋など橋梁維持1億500万円

28年度予算

若者定住・子育て支援の充実

平成28年度予算全会計の総額は94億2007万円であり、前年比で2億1291万円の減額となりました。このうち、一般会計は、63億7500万円であり、前年度を2億1300万円下回りました。これは、人口減少の影響から地方交付税の減少が見込まれるため、財政運営は依然として厳しい状態にあります。

このような中、幼稚園入園料・保育料の無償化や子育て支援の充実のための「多世代交流センター」、幼稚園と保育園の機能を併せ持たせた「こども園」の建設、若者定住のための住宅整備

- 新規事業
 - 川上4区集会所建築 3010万円
 - 子ども園整備測量設計 4564万円
 - 多世代交流センター測量設計 1200万円
 - 消防屯所改築・ポンプ車更新 2908万円
 - 町営プール屋根改修 1860万円
- 備など、子育て支援や定住促進のための予算となっています。

会計別	平成28年度当初予算	対前年度比較	
		増減額	増減率
一般会計	63億7,500万円	△2億1,300万円	△3.23%
特別会計	国民健康保険	△3,107万円	△2.50%
	笹原財産区	4,990万円	11,315.42%
	農業集落排水処理事業	△592万円	△3.79%
	公共下水道事業	△812万円	△4.16%
	介護保険	1,138万円	1.20%
	後期高齢者医療	△299万円	△3.01%
水道事業	収益的支出	1,300万円	5.52%
	資本的支出	△2,608万円	△15.46%
合計	94億2,007万円	△2億1,291万円	△2.21%

（仮）健康福祉センター整備へ始動 少子高齢化対策の中核施設に

平成28年度一般会計当初予算は63億7500万円、前年度と比べ2億1300万円の減となったが、町の主要事業となる（仮称）健康センター整備事業が3事業に分けて総額7600万円が計上された。

一つ目は、多世代交流センター整備で建設に係る測量設計業務委託に2908万円、二つ目が、こども園整備事業で、用地測量設計と設計業務委託に4564万円、三つ目が、高齢者向け公営住宅整備事業で、基本設計委託料に110万円計上された。予算審議では賛成、反対の討論があり、採決の結果賛成11、反対2で可決した。

（仮称）健康センター整備事業は、超高齢社会を迎え、一人暮らし老人対策などとして発案された。町は、事業検討のため埴町健康センター整備検討委員会を設置。同委員会は先進的取り組みの視察や委員間の協議により報告書を取りまとめた。

整備する3施設

こども園

保育園と幼稚園の統合を見据え、育児相談などにも対応できる施設を目指す。定員270人規模を計画。当面は埴保育園と埴幼稚園をここに設置する。

多世代交流センター

町民の医療・介護予防、生活支援を一体的に行う拠点。多世代交流による子育て支援の場。健康サロンや一時預かり保育室などを設置する考え。

高齢者向け公営住宅

高齢者が自立して生活できる、見守り機能が整備された公営住宅。

中身の検討はプロポーザルで

こども園、多世代交流センターは一体の施設として検討しているが詳細はプロポーザル方式で委託先を決定し、委託者の考え聞きながら決定するという。

プロポーザル方式とは15ページ参照

埴町振興実施計画書から

(単位:千円)

事業名	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	事業費	事業概要	事業費	事業概要	事業費	事業概要
はなわ子ども園整備事業	148,838	測量設計委託等工事費 用地買戻費用※ (会計間の売買)	260,000	本体工事費 工事監理委託	280,000	本体工事費 工事監理委託 備品購入
多世代交流センター整備事業	5,000	測量設計委託	158,000	本体工事費 工事監理委託 備品購入		
高齢者向け公営住宅整備事業	1,000	測量設計委託	2,000	実施設計委託	112,405	本体工事費 工事監理委託 備品購入 賃借料

昨年12月に町が提示した事業計画。これに沿って事業が進められる。



建物を撤去し、整地された事業予定地

討論

こども園・多世代交流センター 中身は？ 慎重に進めるべき

賛成



小峰由久議員

この計画が出てから3年たっている。町は、埴町健康福祉センター整備検討委員会などの意見を取り入れ、健康センターから子ども園を中心とした施設に変更し、十分に整備検討委員会などの意見を酌み取っている。また、議会の特別委員

会においても、大多数の議員の賛同を得て、この建設が進められている。埴町健康福祉センター整備検討委員会の報告に沿った施設になっている、特別委員会の報告に沿っていないと言うが、そうではない。

反対



鈴木安次議員

多世代交流センター建設は、多くの町民が反対している。目的を考え、見直すべきは見直し、改善すべきは改善すべき。埴町健康福祉センター整備検討委員会報告では、介護予防教室、健康づくり教室などは、既存の施設を利用すべきとしている。町民が何を求めている

のかよく精査し、慎重に進めるべき。基本計画もできていない中、進めるべきではない。福祉財政状況は悪い。福祉の押しつけにならないよう、町民の声をよく聞いてから進めても遅くはない。時期尚早である。

特別委員会審議

当初予算は、本会議の採決に先立ち予算特別委員会で審議されたが、次のような討論を経て、原案賛成多数となった。(質疑は8・9ページ)

討論

賛成

大縄武夫委員 熟議を重ね結論を得たもの。これからも町民の意見を聞いてより良いものを作るべき。

反対

小林達信委員 少子高齢化が進む中、なくてはならない施設。既存の施設だけでは対応しきれない。健康づくりや介護予防は既存の施設を利用すべき。基本計画もできていない中進めるべきでない。町民の声をよく聞くべき。

特別委員会

予算審査は、予算特別委員会（藤田恵二委員長）で2日間にわたって行われました。特別委員会は、議長を除く全議員が、委員となり一般会計ほか7会計の審議を行いました。町側からは、課長のほか課長補佐、係長も出席して、予算の細部にわたり質疑を行い、慎重に審議しました。審議の結果、賛成10人、反対2人で、原案のとおり可決すべきものと決定しました。採決の前には、3委員の討論が行われる（7ページ）など活発な議論が交わされました。



一般会計

公共施設総合管理計画とは

藤田（一）計画策定業務委託の内容は。

答 人口減少などで利用減が見込まれる公共施設の廃止統合などを踏まえた見直しを行う。財産台帳の整備などと合わせて整理していく。

コンビニ収納の内容

藤田（高）ほか 具体的内容は。費用がかかりすぎないか。

答 町県民税、固定資産税、軽自動車税、国保税、介護保険、後期高齢6税を全国どこのコンビニでも支払えるようにする。システム

土地鑑定評価業務委託とは

費用227万円のほか1件当たり56円の費用がかかる。どのくらい利用されるかの予測はしていない。

吉田 積立の基準はあるのか。

答 法律で翌年度繰越金の1/2以上となっている。予算では、このほか1年分の利子分を計上している。

高齢者公営住宅の内容は

鈴木（安）ほか 基本設計の委託内容、場所は。

答 決定はしていないが、デイサービスセンターに近い場所がいいと思う。どの程度の規模が必要かなど基本設計ができてから場所の選定を行う。

対象は、町内の高齢者で、1人暮らしなど自宅生活が困難

不動産鑑定を行う。29年度の税金に反映される。

若者定住促進住宅とは

鈴木（幸）事業計画の内容は。町内業者の活用は考えるのか。

答 未広町地内9800㎡の敷地に2階建ての住宅3タイプを22戸

となる方が見守り支援のある中、共同生活する場と考える。

藤田（一） 町内のひとり暮らしはどのくらいで住宅は何戸くらいと考えるか。
答 70歳以上で約300世帯ある。高齢夫婦世帯を入れると約600世帯になる。10世帯の方が共同生活できる施設を考える。

計画している。今年度予算を400万円としたが、どのような住宅を建てるべきか、町民の意見を聞いて検討したい。また、発注の方法についても同様に検討する。

国保会計

国保税は上がるのか

藤田（一） 現年課税分が2200万円増えているが。

答 過去2年間の医療費給付額から推計した。医療費は伸びており、6月に税を算定するが上がる予想している。

鈴木（幸） 健康家庭表彰制度は見直したのか。

答 医者にかからなかった国保世帯に1万円を交付している。特定健診の受診など新たな条件を加え、見直したい。

介護会計

介護予防をどう進める

鈴木（幸） 介護予防教室参加者確保は。

答 参加者のためタクシー代なども予算化している。町内一か所で行ってきたが、各地区で行うよう制度改正が

見込まれる。28年は従来通り行うが、それ以降は検討したい。

財産区会計

立木購入費とは

藤田（一） 立木購入費5000万円計上しているが何か。

答 管理契約している7組合へ、分収割合で立木代相当分を配るものである。8月ぐらいまでには支出したい。

水道事業会計

補助金支出は必要か

吉田 多額の利益剰余金があるのに一般会計から補助金を支出しているのはなぜか。

答 利益剰余金すべてが、現金ではない。公営企業会計では、減価償却費など現金を伴わない費用や収入がない。実際には、現金がないと運営できないので、補助金は必要である。

観光事業の内容は

鈴木（茂） 観光資源整備事業など観光事業の内容は。

答 これまで観光協会の作業員2名が風呂山公園などの整備を行なっていたが、1名増やし遊歩道の整備を進める。また、ウォーキングコースやドライブコースを紹介する小雑誌を作る。さらに、川上出身の写真家鈴木一雄氏の写真が寄贈される予定でそれを利用した集客を考えたい。

小峰

観光客の集客目標や経済効果の試算はあるか。

答 目標、試算はないが、人数の把握等はある。目標とすれば前年より増加させることでそのように取り組んでいる。

振興策作物新たな分野を考えないのか

鈴木（安） カラー球根導入事業は難しい、新たな分野に投資すべきと思うか。

答 難しい作物だが、

多世代交流センターとは

鈴木（安） 福祉施設の何に該当するか。

答 老人福祉法に規定している老人福祉センター、老人介護支援センターに類似する施設と考える。法律では、老人福祉センターは「老人に関する各種相談に応

じるとともに、健康増進、教養の向上、レクレーションのための施設」老人介護支援センターは「居宅介護老人やその養護者と老人福祉のための団体等との連絡調整や援助を行う施設」とされている。

希望者が入園できるこども園へ

鈴木（幸） 認定こども園にして、希望者すべてが入園できるようにすべきでないか。

答 認定こども園は、幼稚園と保育園の機能を併せ持った施設で、全ての子育て家庭を対象に、育児相談や親子の交流の場提供などを行う

有害鳥獣への対応は

藤田（一） 新たな駆除隊ができるのか。

答 郡内4町村で足並みをそろえ実施隊として発足する。内容は、従来の駆除隊と変わらないが、広域的駆除ができるようになる。

鈴木（幸） イノシシ被害防止フェンス設置事業とは。

成功事例もある。増殖可能な品種を3年かけて導入し、ここに合った品種を増やしたい。

答 行政区単位で行う事業、鉄柵を設置するものだが効果があると要望がある。

給食費の無料化は

藤田（一） 少子化施策としても効果が期待できる。無料にしては。

答 給食費は、約4500万円。材料費だけである。個人負担は当然と考えるが、少子化問題などの視点もある。議論していきたい。

条例の制定

行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例

行政手続きにおける個人番号を独自で利用する場合や庁内連携するため規定する。

ほか2件 (賛成全云一致)

条例の改正

町立幼稚園条例

幼稚園の入園料・保育料(預かりを除く)無料化する。

平均世帯で年間4万8000円の負担軽減

ほか19件 (賛成全云一致)



辺地総合整備計画の策定について

那倉矢塚線外補修事業を、辺地対策事業債の対象事業とするため那倉辺地に係る総合整備計画を策定する。

過疎債とは 過疎地域自立促進特別措置法に基づいて発行される地方債。過疎地域に該当する市町村に限り認められる借金。発行額に応じて国からの地方交付税が増額されるため、元利償還の負担は少なく、過疎地域の貴重な財源となっている。

辺地対策事業債とは、法律に基づき、辺地とその他の地域との間における住民の生活文化水準の著しい格差の是正を図ることを目的として行われる公共施設の整備や情報通信基盤整備等に対して充たされる地方債。

補正予算のあらまし

Table with 3 columns: 会計名, 補正額, 補正後の額. Rows include 一般会計, 国民健康保険特別会計, 農業集落排水処理事業特別会計, etc.

補正予算

一般会計(第8号) 町税の収入増、IPサーバーシステム更改業務委託料の減、地方創生加速化交付金事業の増、低所得者向け臨時交付金の増、各種事業確定による減など。ほか5特別会計、水道事業会計 (賛成全云一致)

質疑

こども園、多世代交流センターの完成は大綱。次年度へ事業繰越しとなっているが、答弁 基本設計ができていない。プロポーザル方式で委託業者を選定し、国県の補助メニューを検討して事業を進める。なるべく早く完成させたいが、平

人事

固定資産評価審査委員会委員の選任について 生方 光明氏(水元) 同意

陳情

未来の有権者のための、模擬投票所設置に関する陳情 ほか5件

第1回臨時会

平成28年1月22日、専決処分、工事請負契約の締結、補正予算を可決した。

専決処分

税条例 町民税などの減免申請の際の個人番号の記載を不要とする。

工事請負契約について 旧製材工場建物及び工作物解体工事の変更

成30年頃になると思う。

プロポーザル方式は15ページ参照

地方創生事業の自身は鈴木(茂) 具体的内容は。

答弁 竹パウダーを利用した農産物のブランド化、ブランド品のPR、竹パウダーを使った野菜栽培などの補助である。

藤田(二) トラクター600万円が計上されているが。

答弁 こんにやく試験地跡地の耕運や体験交流に利用する。



竹パウダーを利用し栽培しているダリアの植えつけ

割貝 30馬力前後のトラクターにしては高いのでは。

答弁 畑作業に必要な装着機械も購入する。

質疑

予防接種率は鈴木(安) 予防接種の委託料が大幅減額になっているが、接種率はどのくらいか。

答弁 12月現在で4種混合53・6%、日本脳炎12%、小児肺炎球菌ワクチン61・9%などで、前年度並みの接種率にはなる見込みだが、予算は、ほぼ100%見込んだものである。

その他

権利の放棄について

時効期限が過ぎ、納入が見込めない未納給食費42万2千円(3名)の権利を放棄するもの。(賛成多数反対1人)

質疑

小林 徴収努力が足りないのでは。今後も放棄する案件があるのか。未納者の氏名公表は考えないのか。

答弁 努力はしてきた。児童手当を給食費に充てることができるようになったので、今後はないと思う。氏名公表は考えていない。

過疎地域自立促進計画(平成28年度~平成32年度)の策定について 過疎債を利用するために過疎地域自立促進計画を策定する。

第2回臨時会

平成28年2月9日、専決処分、工事請負変更契約の締結を可決した。

専決処分

一般会計補正予算(第7号) 1500万円を増額し、補正後の額を68億1694万8千円とする。普通交付税・除雪の重機借上料の増

契約の変更

工事請負変更契約の締結について 広域農道西ノ久保地区災害復旧工事の変更契約 変更前 金額 5724万円 変更後 7446万7080円

質疑

金額の交渉は 割貝 変更額の交渉はしたのか。

答弁 国庫補助事業であり、基準に沿って設計している。交渉することはない。

残土処理箇所は

藤田(一) 残土の運搬距離が伸びて変更というが、始めから旧薩摩酒造工場跡地の近くに捨てていた、その分も変更額に含まれるのか。

答弁 当初設計は2km以内で残土処理することであったが、捨てる場所がないので、現在の場所に変更した。変更後の場所は、処理開始前に指示しているが、金額の変更は、まとめて、最終的に変更契約している。

初議会

平成28年4月5日、正副議長選挙、常任委員会等議会の構成を決定し(p2, 3参照)専決処分4件を承認した。

専決処分

埴町税条例ほか2条例の改正 平成28年4月5日、増額し、補正後の額を67億6273万4千円とする。普通交付税、国庫支出金の増、基金積立金の増

専決処分とは

予算や条例などを長が議会の議決を経ずに決めること。緊急時で議案を招集する時間がない場合のほか、議案が議決すべき議案を議決しないといった時などでも認められている。処分後には議会で報告して承認を求める必要がある。

高齢者世帯の生活をどう守るのか 対応をより充実したい

一般質問

質問

少子高齢化社会を迎え、高齢者世帯や障がい者などの生活弱者世帯の生活道を除雪できないか。

答弁

担当課間で協議させ、できるだけ対応したい。

質問

買い物や通院の手段として②デマンドタクシーを導入すべきと思うがどのように考えるか。

答弁

デマンドタクシーを含め公共交通活性化協議会の中で方向性を決めたい。



デマンドタクシー

②デマンドタクシー・・・予約型の乗り合いタクシーで、事前に予約があった場合のみ運行し、利用者宅から運行区域内の乗降箇所まで運行するもの。



鈴木 茂

ふるさと納税は町の財源確保に有効だ。遠くの親戚、知人をお願いしよう。返礼品が充実している。

質問

さらに高い目標額を目指すと思うがどのように考えるか。

答弁

返礼品は竹パウダーによる野菜、果物をブランド化し、おいしいもので充実させていきたい。道の駅を中心とする事業者、生産者と子どもたちがつながるような事業を支援したい。



ふるさと納税を充実させては

今のところ、自前で対応したい

質問

一人暮らしの老人世帯、老人のみの世帯の悩みや生活相談に今後、どのように取り組んでいくのか。

答弁

現在、70歳以上のみの世帯が575世帯ある。見守り隊、包括支援センターや健康福祉課職員などが対応している。今後、さらに体制を充実させると共に、近所同士の声かけの仕組みを充実させていきたい。

質問

ふるさと納税返礼品をより充実させてさらに上を目指すべきである。去年の郡内の納税額の状況と町長の感想は。

答弁

埴町1909万円。棚倉町897万円。矢祭町392万円。鮫川村235万円であり、当町は好評であるがさらに地産地消で返礼品を充実を図りたい。

新たなバイパスを作っては 県に要望する

質問

上町地内の県道拡幅は、各方面へ陳情してきたが、最大の障害が水郡線であるのとこととで断念せざるを得ない。対策として川上と上石井を結ぶバイパスを検討してはどうか。

答弁

県道拡幅は難しいが、県へ要望し続ける。川上、上石井間には町道がある。一部トンネルにし、道路ができれば素晴らしい。関係機関へ要望していく。

質問

板庭原木沢地内から上石井に道路ができれば、工場団地造成も考えられる。

答弁

前向きに考えたいが町独自には財源的に難しい。県道としてできないか要望していくしかない。

町指定文化財の保護は

審議会で検討する

質問

過疎高齢化により地域での文化財の維持修繕は困難となる。ふるさと納税積立金などを活用し補助できないか。

答弁（教育長）

指定文化財修繕には補助制度があり、これまでも補助した例がある。文化財を保護すべき範囲、補助対象、補助の財源を文化財保護審議会などで検討していきたい。



町指定文化財湯舟観音堂

介護士不足対策は
町村会として協議

質問

介護士不足対策として東白川郡による協力はできないか。

答弁

なかなか人が集まらないが4町村で共同で講習が受けられないか検討している。

質問

こども園、多世代交流センター、幼稚園跡地を利用した介護士養成を行えないか。

答弁

県も補助金を検討しているので前に進めたい。



小峰 由久

正しくあれ、そして恐れるな
一人の顔を恐れることなく、
将来に待ち構えているものを恐れるな
新渡戸 稲造

移住・定住の強化策は 仕事・住宅整備 子育て支援を



鈴木 幸江

安全で安心な水の安定的供給は
「行政の責任」
早急な対応が待たれます。

質問 移住・定住促進対策はどうする。

回答 人口減少対策として40代前後の人たちの定住と結婚子育て支援が必要と考える。若者のI・Uターン促進のため町の魅力を発信し、定住策として働く場の設定・税の軽減・若者向け子育て支援住宅建設事業を進める。

質問 住環境整備をどのように進めるのか。

回答 若者が安心して定住できる場所の提供を検討する。住宅リフォーム補助事業も継続する。台宿に定住促進住宅を計画。末広町に子育て支援住宅建築を計画している。

質問 分譲か公営住宅なのか。

回答 定住につながる方法で検討したい。

質問 公営住宅入居基準についての考えは。



若者向け住宅建築予定地（台宿）

回答 定住促進住宅は町独自に設定できる。

質問 空き家を活用した定住促進策は。

回答 借家・購入いずれもリフォーム資金の補助対象とする。

質問 県は県内への移住促進対策として市町村が実施する空き家活用の改修補助制度を新設する。制度を活用する考えは。

回答 仕事・住宅・移住を一帯的に進め空き家所有者の意向を確認し、補助事業を活用したいが現段階ではそこまで至っていない。

質問 県は県南地区を重点的に進めるとしている。空き家の荒廃は進んでいる。早急に方針を出すべきでは。

回答 県は県南地区を重点的に進めるとしている。空き家の荒廃は進んでいる。早急に方針を出すべきでは。

回答 空き家調査結果がでていない。仕事の確保など課題がある。慎重に進めたい。

質問 交流拠点整備・体験型住宅整備の考えは。

回答 適した空き家があれば整備し、情報発信したい。

質問 その他の質問
町有給水施設維持管理について

こども園なぜプロポーザル方式 専門家の考えを取り入れる



鈴木 安次

当町の重要な施設なので
もっと時間をかけて検討
すべきと思う。

質問 こども園・多世代交流センター建設事業設計業務に関するプロポーザル公募を始めたが、具体的な考えは。

回答 もともと健康センター的なものを作る考えでいたが、検討を重ねた結果、少子化対策としてこども園も必要ということになった。専門家の意見を聞きながらどの様なものを作るかこれから検討していく。

質問 個人でさえ、家を建てる場合どの様なものを建てるか考えて業者

回答 こども園は、定員270人、多世代交流センターは、延べ床面積1,000㎡としたが具体的にはこれから

に依頼する。町長は何の構想もない中でどのようにして建設する考えなのか。

回答 町は素人なのでプロの頭脳を借りる。現在14業者から申し込みがある。提案内容を見て一番いいものを判断する。

質問 公募にあたり施設規模が設定されている。建設規模等の考えは。

回答 医師がそばにいらただけで安心する。精神的安心と肉体的健康を得られるよう運営したい。

である。施設は単体で利用するのでなく、お年寄りと子供が交流できるように考えたい。

質問 運営主体は。

回答 現在の保育園幼稚園、包括支援センターが入るので町直営になる。

質問 塙厚生病院に計画段階から協議に入っている。ただ、運営主体に加えてはどうか。

回答 利用範囲は限定しないが健康な高齢者から軽度介護認定者を中心に軽度認知症の方などとし、介護予防を目玉としたい。



介護老人保健施設の「久慈の郷」は 塙厚生病院が運営している。

質問 高齢者のうちどのような方を対象とするのか。

回答 使える補助を最大限活用する。こども園は、森林環境交付金、学校施設環境改善交付金を見込んでおり、多世代交流センターはこれから具体的検討をしていく。

質問 建設費の財源見通しはあるのか。

回答 プロポーザル方式業務の委託先を選定する際に、複数の者に目的物に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定すること。

多世代交流センター 町民が求めているか 町民のニーズと考える



藤田 一男

行政側の議員が多いと町民の声がある。議会議員の基本である。是々非々の精神で今後も活動していく。

質問 多世代交流センターは多くの町民が求めているか。再検討すべきと思うが、町民のニーズをどのように受け止めたのか。

答弁 そのような方法もあるが、介護と医療の連携強化が必要。医療を考えると中心施設が必要である。

質問 健康福祉センターが検討委員会の話し合いで、こども園・多世代交流センターに変わってきた。これも町民のニーズと考えている。

答弁 健康への関心を持ってもらいたい。現在役場内にある包括支援センターを移設するので、その経費は変わらない。自然エネルギー利用の施設にし、維持管理費を抑えたい。具体的には試算していない。

質問 健康への関心を持ってもらいたい。現在役場内にある包括支援センターを移設するので、その経費は変わらない。自然エネルギー利用の施設にし、維持管理費を抑えたい。具体的には試算していない。

質問 利用者確保はできるのか。また、維持管理費の試算はあるか。

質問 健康への関心を持ってもらいたい。現在役場内にある包括支援センターを移設するので、その経費は変わらない。自然エネルギー利用の施設にし、維持管理費を抑えたい。具体的には試算していない。

質問 健康への関心を持ってもらいたい。現在役場内にある包括支援センターを移設するので、その経費は変わらない。自然エネルギー利用の施設にし、維持管理費を抑えたい。具体的には試算していない。

質問 健康への関心を持ってもらいたい。現在役場内にある包括支援センターを移設するので、その経費は変わらない。自然エネルギー利用の施設にし、維持管理費を抑えたい。具体的には試算していない。

質問 健康への関心を持ってもらいたい。現在役場内にある包括支援センターを移設するので、その経費は変わらない。自然エネルギー利用の施設にし、維持管理費を抑えたい。具体的には試算していない。

質問 健康への関心を持ってもらいたい。現在役場内にある包括支援センターを移設するので、その経費は変わらない。自然エネルギー利用の施設にし、維持管理費を抑えたい。具体的には試算していない。

質問 健康への関心を持ってもらいたい。現在役場内にある包括支援センターを移設するので、その経費は変わらない。自然エネルギー利用の施設にし、維持管理費を抑えたい。具体的には試算していない。



保育園とともにこども園に移行する埴幼稚園

町民レベルの都市交流支援を検討したい

質問 職員の資質向上のため、予想する国際化に伴う職員のコミュニケーション能力・語学力の向上など特に若手職員のスキルアップが必要と考える。現状と将来に向けた考えを伺う。

答弁 職員研修施設に派遣し、計画的に実施している。国際化にも対応すべきと思うが、今はできていない。若手職員に対しては、地域との関係を持つように、地域消防団加入や地域行事への参加を奨励している。また、3年以内の職員を対象に都市交流事業に参加させている。昨年は、若手職

質問 都市交流を町民レベルで進めることが必要だが、町民が都市のイベント等に参加するには交通手段の確保が難しい。交通費の補助など対策を検討してはどうか。

答弁 イベント等は毎月行われているが、すべてに交通費を出すことは費用の面から難しい。年に数回、貸し切りバスを準備し、希望者を募って参加することは検討に値する。



若手研修も参加した都市交流

若手職員の資質向上どうすすめる 研修を計画的に実施している



藤田 高志

質問 職員の資質向上のため、予想する国際化に伴う職員のコミュニケーション能力・語学力の向上など特に若手職員のスキルアップが必要と考える。現状と将来に向けた考えを伺う。

答弁 職員研修施設に派遣し、計画的に実施している。国際化にも対応すべきと思うが、今はできていない。若手職員に対しては、地域との関係を持つように、地域消防団加入や地域行事への参加を奨励している。また、3年以内の職員を対象に都市交流事業に参加させている。昨年は、若手職

質問 都市交流を町民レベルで進めることが必要だが、町民が都市のイベント等に参加するには交通手段の確保が難しい。交通費の補助など対策を検討してはどうか。

答弁 イベント等は毎月行われているが、すべてに交通費を出すことは費用の面から難しい。年に数回、貸し切りバスを準備し、希望者を募って参加することは検討に値する。

急激な少子高齢化の時代到来だ！
一番大切なのは将来の担い手！
「若者に託す！」

その他の一般質問

一般質問はこのほか、小貫初枝議員（生活安全のための町道整備について）、小林達信議員（子育て支援について）が行いました。

一般質問は、会議録（5月下旬）やインターネット中継で見ることができます。

追跡レポート ～ 一般質問のその後 ～

過去の一般質問の中からピックアップしその後の動き、現在の状況を調査しました。

独自の品で埴町をPRしては

町では平成27年12月からふるさと納税の受付を本格的にスタートした。ホームページ上 (<http://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/07483>) で受付や返礼品を選べる。

平成27年は838件、21,208,000円の申し込みがあった。町の商品を返礼品としているが、もっと埴町をPRできる商品であったり、埴町を訪れて利用できる返礼品など埴町にしかないもの、埴町でしかできない体験を返礼品にできないか。また、原材料から加工・製品化まで埴町で行った商品を増やすなど経済が循環できる仕組みが必要である。

問い合わせは

総務課 (電話43-2111) までお願いします。

ふるさと納税で経済の活性化を
質問 返礼品はただお金を循環させることが必要。埴町の農産物・物産をアピールし、町をPRすることが重要である。
答弁 検討している。選択肢はいろいろある。
 (平成27年9月定例会)

議会議員と意見交換しませんか

議会議員と意見交換会をする団体を募集しています。町民または町内に勤務しているおむね10人以上のグループが対象で、ご希望の会場に伺います。お申し込みは、議会事務局 (Tel 43-2150) をお願いします。

議会だよりモニターさんの声 (前号の感想)

- 表紙、裏表紙について
 - 子どもの表情が希望につながるイメージだが、記事の内容につながりにくい。
 - 対応 記事と連動させていきたい。
 - 文字の大きさ、配置などがわかりやすい。記事を読んで
 - 「木」という町の財産が生きていることを願う。
 - 特別委員会の記事は町民がこれから何を期待して何をすればいいか見えない。
 - 森林再生事業に期待する。
 - 意見交換会は声が聞ける集会や地区ごとに関心など話を聞く機会を作った方がよい。
 - 意見交換会は一人ひとりの声を聞き、応えてほしかった。
 - 対応 次回の開催時に内容を検討します。
- 改善点
 - 追跡レポートは簡潔にまとめ、多くのレポートを載せてほしい。
 - 対応 スペースに限りがあるが検討します。
 - 一般質問が読みにくい。読みやすい工夫を。対応 わかりやすい紙面づくりを工夫します。
- その他・全体への意見
 - 人が集まる魅力的な町づくりを期待する。
 - どういった人が子ども園などの話し合いの場に参加し施設を作っていくのか知りたい。
 - 林業振興、少子化対策にスピードを持って取り組んでほしい。

地域医療を考える 地域医療確保など要望



1月18日 東白川地方町村議会議長会 (郡内町村議長で組織) は、医師不足解消のための財政支援及び国県管理の河川整備について県へ要望した。本町議会からは鈴木議長が出席し、当地方の医療体制の実態を説明し、特に埴厚生病医院への医師確保を要請した。

また、2月24日には、J A 福島厚生連へ医師確保の要望活動を行った。

2月23日埴厚生病院において4町村の議会議員が研修会に参加した。燕木事務長が「病院の利用状況と次期3カ年計画」、佐川院長から「地域医療を考える」と題して講演をおこなった。

佐川院長からは、「日本はどこでも平等な医療が受けられるが、医療分野はPPPの最大のターゲットになっていく。日本の医療費が40兆円を超えるため、持続可能な日本の医療制度を考える必要がある。」との話があった。

地域医療確保など要望
 1月26日 杉妻会館 (福島市) において、福島県町村議会議長会

これからの埴厚生病院はどうなる

定期総会が行われ、当町議会からは鈴木議長が出席した。このなかで、鈴木議長は、医師不足問題に触れ、埴厚生病院では整形外科医師2名体制が実現したが、郡内町村の財政負担が今後懸念されることから、地域医療体制の強化の取り組みが必要と訴えた。

なお、総会に先立ち全国町村議会議長会表彰伝達が行われたが、長年にわたり地方自治の発展に貢献したとして全国表彰を受けた、鈴木道男議長に表彰状が伝達された。



埴町議会の「今」をお知らせ

埴町議会ではホームページやフェイスブックで活動状況をお知らせしています。自筆の活動報告書や賛否の状況、会議などの出欠、議会だよりに掲載できない情報もこちらに掲載しています。

埴町議会で検索

定例会傍聴者アンケートから

一般質問 こんなふう感じました

- 3月定例会 (一般質問) を傍聴された皆さんにアンケートをお願いしたところ14人の方から回答をいただきました。ありがとうございます。
- Q 議員の質問は。
 A よくわかった (9)
 A どちらともいえない (3)
- Q 町の答弁は。
 A よくわかった (7)
 A どちらともいえない (5)
 A わからなかった (1)
 Q また議会傍聴したいか
 A したい (13)
 A どちらともいえない (1)
- 感想・意見**
- 質疑に対して率直に答えてほしい。
 - 質問事項をよく理解した上で答弁してほしい。
 - 町は広報が足りないと言っているが議員も聞く耳を持つてほしい。
 - もう少しつっこんだ質問がほしい。
 - 多世代交流センターは慎重に進めてほしい。子育て中の親の意見をよく聞き取りしてほしい。
 - 町長の考えがわからない。
 - 町当局、各議員が懸命に町を考え「住みよい埴町」を目指している。高齢者の今後の生活をどのように守るのか。

皆さんの団体やサークルに広報常任委員が伺います。

団体の名称：手作りサークル どんぐりの会
代表者：深谷 春江さん TEL 43-0627

私にもできる
世界に一つだけのものづくり

手芸など様々なものを手作りしているサークルです。
手作り、手芸と聞くと「難しそう」「裁縫は苦手」と思う方も多いかもかもしれませんが、メンバーに裁縫が得意な人はいません。みんなが先生で生徒。「私でもできる、誰にでもできる」が合言葉で、ミシンがなくても簡単にできるものを作っています。
浴衣をほどこいたものや余りきれなどを使い、コサージュ（花飾り）などを作り、コミュニティプラザで作品展や布を使った花づくり体験なども行っています。
手作りチュニックに身を包んだ皆さんの笑顔がはじけます。



作品を前に素敵な笑顔で！

編集後記

4月は、町立幼稚園、小中学校の入学式が行われました。新入生達は希望を胸に新しい友達もでき、元気に学校へ通って精一杯頑張っている頃と思います。町では議決された当初予算の執行に着手。議会は、改選が行われ議会運営の新体制がとこのいスタートしました。広報常任委員会は議会の広報公聴に関することを担当します。「議会だより」は、その一つの広報にはいります。
町民の皆様は手に取って見てもらおう。「議会だより」を一人でも多くの方に読んでいただくことを目標に、これからも広報編集に努めて参りたいと考えています。ご意見等お待ちしております。よろしくお願ひします。
吉田 克則

**議会傍聴に
おいでください**
次回の定例会は、6月2日から開会される予定です。氏名の記入など簡単な手続きで傍聴できます。ぜひお出かけください。

広報常任委員会
委員長 吉田重
副委員長 下鈴木
委員 長 鈴木
委員 吉田
委員 廣宮
委員 則人
委員 次茂
委員 安廣
委員 明樹

※議事録は、会議資料に添付してあります。会議録は、事務局へお問い合わせください。

発行所 埴町議会議長大綱 武夫
編集 議会広報常任委員会

〒963-5492 福島県白川郡埴町大字埴字大町三丁目21
TEL 0247-43-2150 FAX 0247-43-2116

URL <http://www.town.hanawa.fukushima.jp/>
E-mail gikai@town.hanawa.fukushima.jp